

平成29年度佐賀プライドプログラム 実施報告書

1 事業の概要

(1) 実施団体名	心と発達の相談支援 another planet (A S S R 株式会社)
(2) 実施期間	平成29年 9月～平成30年3月
(3) 対象者・人数	<p>発達障害のある県内の高等学校の生徒であり、以下の4つの条件を満たす生徒18名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師から発達障害(LD/AHDH/自閉症)の診断を受けている ・在籍する高等学校又は高等専修学校の在学証明を得ている ・高校1年生又は2年生 ・事業の効果測定調査に御協力いただける方 ・保護者が毎回参加ができる方 <p>(申し込みは22名。最終学年のために対象外だった方が1名、説明後に辞退者2名、初回参加後継続できなかった方1名あり、18名で実施。)</p>
(4) 全体目標の達成状況	<p>以下の内容で実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者への事業内容説明(1回1時間×22名) 2. アセスメントの実施(事前アセスメント1回1.5時間×19名、その他アセスメント2～3回(1回2時間)×18名、アセスメントの結果報告それぞれ1回1時間) 3. 個別セッションの実施 <ul style="list-style-type: none"> 生徒本人への事前の事業内容説明(必要な方のみ5名 1回1時間) その後、グループプログラムと並行して、必要な生徒に個別セッションを定期的に提供。 4. グループプログラムの実施6回(2会場、前期後期実施)1回2時間 <ul style="list-style-type: none"> 生徒向けプログラム及び、保護者向けプログラム 下記「支援の実施結果」に内容を記している。 5. 特別講話1回2時間×2回

	<p>高校の特別支援コーディネーターの先生の講話 自閉スペクトラム症の先輩の講話</p>
(5) 実施体制	心と発達相談支援 another planet 臨床発達心理士 4 名
(6) 実施場所	<p>武雄会場：心と発達相談支援 another planet (武雄市武雄町昭和 6 - 5 あさひビル 2 F) 佐賀会場：佐賀市内で、その都度部屋の確保できた場所で行った。 (アバンセ、市民活動プラザ、ほほえみ館)</p>

2 支援の実施結果

区分	目標の達成状況、実施実績(回、人) 評価指標(実施前後) 事業の効果(指標の変化量) 等
(1) 自己認知支援	<p>グループ指導外に、検査(ADOS-2)を実施し、生徒の正しい障害特性の理解を行った。</p> <p>グループ指導(計6回)においては、障害の説明、自分の長所と短所、周囲の人から自分がどう見えているかなどを考え、話し合った。保護者からも子どもの長所・短所を書きだしてもらうことで、自己評価と他者評価の違いについても認識することができ、自身の特性理解を深めることができた。</p> <p>また、保護者に対し、毎日の子どもの行動記録をつけてもらうことで、子どもの行動の特徴、感情の表現方法、感情の波などの正しい理解を促した。</p>
(2) ライフスキル向上支援	<p>グループ指導外に、検査(Vineland-)を指導前後に行い、現在の生活レベルの適応行動の把握をした。</p> <p>結果を保護者に説明し、子どもの正しい状況把握に努めた。ライフスキル向上のために、ABA(応用行動分析)の随伴性契約についての説明を行い、家での生活支援についての方法を提案した。</p>
(3) 感情コントロール	<p>グループ指導外に、保護者に検査(子どもの行動チェックリストとBDI-)を、生徒本人に対し検査(CDI)を実施し、状況把握を行った。</p>

	<p>グループ指導において、CBT（認知行動療法）を活用した The CAT-Kit という教材を用い、自身の感情（喜び・怒り）についての分析を行い、感情コントロールの方略について学んだ。コントロールの方略は、Tool Box という視覚支援にまとめ、必要なときに思い出せるように、各自持ち運べるようにした。</p> <p>保護者には、日々の子どもの行動記録から感情の理解と、A B C 分析の説明を行い、子どもの行動に対し、結果をどのように提示するのがいいのかを説明した。</p>
(4) 進路選択支援	<p>生徒本人、保護者ともに、自閉スペクトラム症の先輩（大学、大学院、就職など）の話聞く機会を設け、進路や成人期の生活についての展望を持てるような学びを得た。支援を受ける必要性、支援を受けるために自身の障害について説明していく必要性、相談することの重要性など、実際にうまくいった点だけではなく失敗経験を聞くことができた。さらに、高校の特別支援コーディネーターの先生の話聞く機会も設定し、進路選択についての話、学校での支援の得方などの情報を得ることができていた。</p>